

2026年度 第1回 公立大学法人埼玉県立大学理事会 議事録

日 時 2026年4月27日(月)10:00~11:30

会 場 本部棟会議室2(オンライン併用開催)

出席委員 田中理事長、林副理事長、犬飼理事、金村理事、岡島理事、戸所理事、佐野監事、中野監事

出席教職員 濱口研究開発センター長、田口学生支援センター長、平野副局長、新井調整幹兼総務担当部長、小寺企画・情報担当部長、出井財務担当部長、根本教務・入試担当部長、富田学生・就職支援担当部長

【オンライン】

田中副学長兼学部長、常盤学長補佐、横山研究科長、北畠情報センター長、善生専門職連携教育研修センター長、上原地域連携センター長、滑川保健センター長、竹島共通教育科長、國澤看護学科長、今北理学療法学科長、臼倉作業療法学科長、小澤社会福祉子ども学科長、植野健康開発学科長、山口高等教育開発センター副センター長、村井研究開発センター副センター長、甲田施設管理担当部長、黒沢研究・地域連携担当部長

議事概要 ○:学外理事、監事 ●:学内理事、事務局

【議事録確認】

田中理事長から前回の議事録が提示され、確認された。

【議決事項】

第1号議案 2026年度教員採用方針(案)について

資料に基づき、平野副局長から説明し、案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○教員採用事務は柔軟に実施してもらいたい。理事会に諮るまでの説明を持ち回りや書面等の簡易な方法で実施することはできないか。

●採用は計画的に実施しているが、自己都合等での退職が発生し、急ぎの対応が必要になった場合は御意見を参考にする。

○自己都合退職をする場合は、原則何か月前に申し出をする必要があるのか。

●自己都合の退職については、就業規則で退職を予定する 30 日前までに文書で承認を得ることとなっている。

○大学がどのような意図を持って採用を実施するのかがわかるよう説明してほしい。大学として求めている人材があり、その人材を採用するということを示してほしい。

●基本的に前任の教員の欠員を補充する目的で採用している。

○カリキュラム等も変わると思うので、従来とは異なる人材を求めていることもありうるのではないか。理事会の議案として審議するのであれば、採用時の意図やどのようなプロセスで採用されることになるのかを説明してほしい。

●議案1は、どのような採用、面接をするのかという採用方針の議案になる。具体的な採用の議案ではなく、議案2がそれにあたる。

○理事会として、本議案は何を判断するのかがわかりにくい。以前、教員採用は恣意的な人事にならないように理事会で諮っているとの説明があった。採用内容について事務局の説明を聞くとその通りだと納得できるが、より全体像を説明していただけるとよいのではないか。

○理事会で採用方針を決めるが、実際の採用はどのようであったかを報告してほしい。

●採用結果に関して御意見があることは承った。どのような形で報告するかは、検討させていただきたい。

第 2 号議案 教員の採用について

資料に基づき、林学長から説明し、案のとおり、異議なく議決された。

主な発言は以下のとおり

○先程の議論を踏まえた丁寧な説明であり、求める人物像をよく理解することができた。

○教員人事委員会のフローにおいて、理事会がどのように関与するかを議論していただきたい。

●理事会の場ではなく、採用に至った経緯等について、任意で報告をさせていただき方向で検討させていただく。

【報告事項】

(1)2026年度科研費の採択状況について

資料に基づき、濱口研究開発センター長から報告した。

主な発言は以下のとおり

○厚生労働科研費や製薬会社等の企業の受託研究の採択内定はいつ頃になるのか。

●厚生労働省の募集は早くて6月頃、実施が7,8月頃。企業の受託研究は年間で都度内定が出ており、学内では年間約30件になる。

○学内でどれくらいの教員が取り組んでいるのか。

●2019年までは全職員が応募する方針だったが、文部科学省等から目標化しないようにと示されたため、現在では6割程が取り組んでいる。

○一生懸命に取り組んでいる教員に対して、インセンティブ的な加点はないのか。

●本学では、外部研究費を多く持って来られた教員にはポストアワードという人的支援をしている。また、研究費に応募した教員には、奨励研究費を手当している。

○基盤研究Bについて、前年に比べて採択率は上昇しているが、上昇理由を教えてください。

●基盤研究Bは、基盤研究Cのような基礎的な研究をしっかりと実施された教員が、大型化していく登竜門となっている。毎年応募することが可能なため、2025年度に採択されなかった教員が再度ブラッシュアップして応募することで、採択率が上昇する。本学でも、5年前は2件程度しか採択されていなかったが、現在は9件採択されている状況なので、本学の研究力が上がってきていると考えている。

(2)2025年度国家試験の結果について

資料に基づき、田口学生支援センター長から報告した。

主な発言は以下のとおり

○既卒者の合格率は把握しているのか。

●大学を通さず、個人で出願する者もいるので、全既卒者の合格率は把握していない。

○不合格だった学生に対してどういったフォローアップを行っているのか。

●次回以降受験する意思がある学生については、大学での模擬試験の受験や、教員による対策講義の受講、事務局を經由しての国家試験出願などのフォローアップを行っている。

○何人の学生がフォローアップを希望したのか。

●2024年度国家試験に不合格であった6名のうち、5名の卒業生については、本人の希望を確認の上、再受験のための必要なフォローアップを実施した。

○不合格で卒業した学生が、再度の受験でどの程度合格しているのか。

●2024年度に不合格であった6名のうち2025年度試験での合格者は、臨床検査技師に合格した健康開発学科の1名のみであったと把握している。

○国家資格を取得せずに就職する学生の人数、就職先はどのようになっているか。

●資格を取得せずに卒業する学科は、健康開発学科健康情報学専攻となる。改めて次回の理事会で報告する。

(3)2026年度入試結果について

資料に基づき、根本教務・入試担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

○健康開発学科の県内率が減少している理由を教えてください。

●健康情報学専攻の県内出身者の割合が減少したことが要因になっていると考えている。

(4)債権の放棄について

資料に基づき、出井財務担当部長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 会計上ではどのような処理になるのか。
- 貸倒損失として計上し、令和7年度の処理としている。

(5)教員人事委員会委員の指名等について
資料に基づき、平野副局長から報告した。

主な発言は以下のとおり

- 過去の委員会で不服の申立てのされた事例はあるか。
- なかったと記憶している。

- 採用・再任の指名順は、案件が生じて指名があれば次の順番の人が指名されるということだと思うが、幅広く意見を聞き公平性を保つための制度なのか。どのような意図でその順番を決めているのか教えていただきたい。
- 案件によっては順番に指名しない場合もあり、公平性を保って審査するという意図である。

以上